

「男女共同参画・女性活躍の推進に向けた重点方針 2019 策定」案へのコメント

白波瀬佐和子

第 18 回重点方針専門調査会（2019 年 4 月 8 日）に提示された、女性活躍加速のための重点方針 2019 の策定方針について、賛同を示すものである。特に、中高年女性に着目することは重要である。女性活躍の観点にあつて、これまで幼い子どもたちをもつ母親たちの就労継続支援に始まり、比較的若いライフステージにおける複数の役割遂行に伴う問題への解決策という様相が濃く出されてきたように思う。一方、人生 100 年時代となると、平均寿命が男性よりも長い女性たちは、高齢化に伴うさまざまな問題に直面することが少なくない。例えば、子育てが一区切りしつつ、高齢の親の世話が始まるステージでもあるが、それまでまだ少数派といえども就労を継続し、管理職に就くものも増える中、親の介護問題が出てくる時期でもある。あるいは、就労をやめて、断続的な非正規就労に就いてきた女性たちが本格的に仕事をしようと思っても十分なキャリアが蓄積されていない場合や、親の介護のために仕事を再開することも諦めざるをえない場合もある。晩婚化・未婚化する子世代と高齢化（長寿化）する親世代の間で、さまざまな問題に直面するのが中高年女性でもあるから、このたび特に中高年女性に着目して、重点方針を設計しようとする試みはよいと思う。

その一方で、第 19 回重点方針専門調査会にて配布された資料 7 で示された骨子案にあつて、重点的に取り組むべき事項として 3 点が挙げられているが、この 3 つの点が男女共同参画の女性活躍の推進という上位方針をうまく出すかたちで提示されうることが強く期待される。例えば、人生 100 年時代ということは様々なところで言われているが、それを男女共同参画という観点からどう位置づけていくかは極めて重要だと考える。単なる表現の問題ともいえるかもしれないが、この点、広く国民にわかりやすいメッセージを発信するという点から工夫することは大切だと考える。

最後に、中高年女性の就労ということとなると、起業支援については積極的に検討してもよい事項だと考える。特に地方創生という観点から、女性による起業、ビジネスモデルは今後の日本経済を後押しするものになるに違いない。例えば、農業、食、という観点からも女性たちによる起業をさまざまな面でバックアップすることは、これからの新たな働き方にもつながるのではないだろうか。そのためには、リカレント教育等、成人のための専門教育の提供が一層重要になり、若年層のみならず中高年、特に女性たちへの教育（広く職業教育含む）への投資の重要さは強調しておきたい。